



ラリー・ウィリアムズのパートナー なりた・ひろゆきと

米アノマリーの第一人者、エール・ハーシュのあとを継いだ ジェフリー・A・ハーシュによる
主要市場を分析した最新相場予測レポート！

▼▼▼ご購入の詳細はこちら▼▼▼

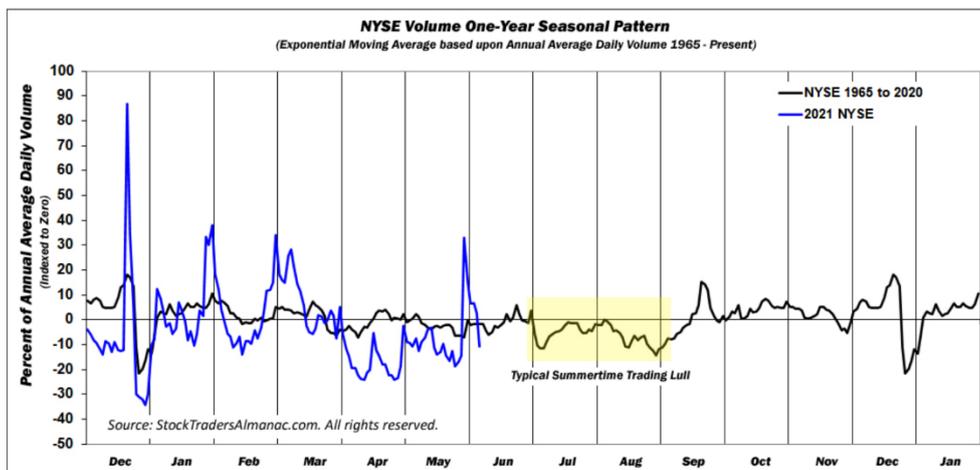
<http://trs.jp/p/5962/2011411200000>

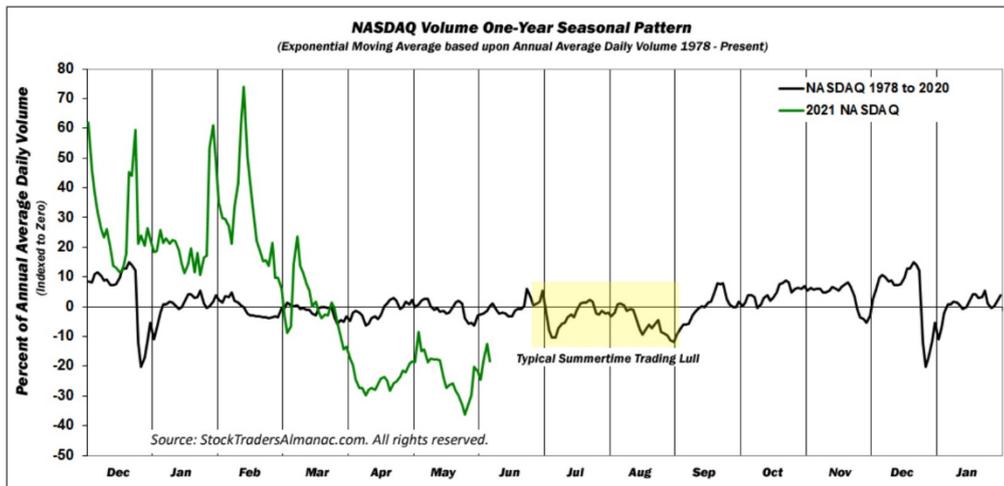
2021年6月9日

Summer Market Volume Doldrums Arriving Early? 夏相場の出来高の低迷はすでにはじまったのか？



ここ数年、メモリアルデーの連休は公式の夏の始まりとされている。その後間もなくして、株式売買は(外的なイベントの引き金がない限り)夏の終わりのボトムに向かってゆっくりと減少し始める。夏の売買の低迷を、ウォール街での低調な取引量と無気力な取引のため、「どん底」と呼んでいる。個人投資家が株を売ろうとすると、一般的にウォール街からは無関心な態度に直面する。これでは、良い価格で株を売ることはできない。夏の上昇相場が短命に終わり、すぐに引けたり、調整したりすることが多いのはこのため。





上表は、2021年6月4日の引け時点での2021年の年間平均日次出来高移動平均に対して、NYSEは1965年以降、NASDAQは1978年以降の1年間の季節別出来高パターンをプロットしている。典型的な夏の小康状態を黄色で強調している。今年は夏の典型的な出来高減少が早くも訪れたようで、出来高はすでに平均を下回っている。典型的な夏の閑散期に出来高が長期的に急増することは、特に利益を伴っている場合、強気相場が継続することを示す心強い兆候となっている。しかし、トレーダーが確信を失い、ウォール街が毎年恒例の夏相場から脱出するようであれば、マーケットはすぐに引き戻されたり、調整されたりする可能性がある。